



## 専用ターミナルとベンツ 〜ファーストクラスを体験(中)〜

新幹線のグリーン車すら利用しないのに、ファーストクラスに乗るなんて考えたこともなかった。しかし、子供たちの「金祝記念、巡礼記を書くのに体験したら」という言葉で決断する。確かにヨーロッパ片道約百万円は高過ぎる。が、生涯に一度ぐらいこんな珍事があったても良いだろうと自分を納得させる。

世界でも専用ターミナルがあるのはこのほかドバイ国際空港、ドーハ国際空港で、三カ所だけらしい。なぜそんなターミナルが必要なのだろうか。

さて、私が利用したのはフランクフルトから帰国する時だ。ここ

別のビジネスラウンジなどが設けられ、ターミナルが手狭になっていく。そこで新改築する際、ビジネスクラスとの差別化を図るため、極上のサービスを提供するゆつたりとした空間の専用ターミナルを作ったのだろう。フランクフルト空港の場合、二〇〇四年に第一ターミナルの近くに二階建ての専用ターミナルが設置された。帰国の際、ホテルでタクシーを呼ぶと、インド人のボーイはタクシーの運転手に「ファーストクラス専用ターミナルだ。間違えないように」と注意していた。タクシーで行く人は少ないのだから。私は気楽な家族旅行なのにファーストクラスに乗るためにわざわざ三つぞろいを用意したのである。

さて、専用ターミナルで一番驚いたのは、専用ラウンジから搭乗機に乗るために高級車のベンツで送ってくれたことだ。同様のサービスをエア・フランスもしているという。一般ターミナルから少し離れたところにあるので、高級車で送ることになったのだろう。高級車や専用ターミナルは、私には過剰サービスに思える。ただ、最近ではファーストクラスは廃止の方向にあるらしい。金額による余りの差別は良くない。高齢化社会、お年寄りが楽に旅ができるようにもつと安くビジネスが利用できるようにしてほしい。

搭乗した機内では八席あるファーストクラスのみひし掛けに穴があり、そこに生の赤いバラが生けてあった。機械ばかりの機内で、美しい花には心を癒される。飲んだこともない高級ワインのサービスよりこの花の方がうれしかった。

宝くじにでも当たらない限り、こんな体験をすることは二度とないだろうが、金祝の忘れられない経験になったのは事実である。



飛行機に乗るのに高級車に乗るなんて！